

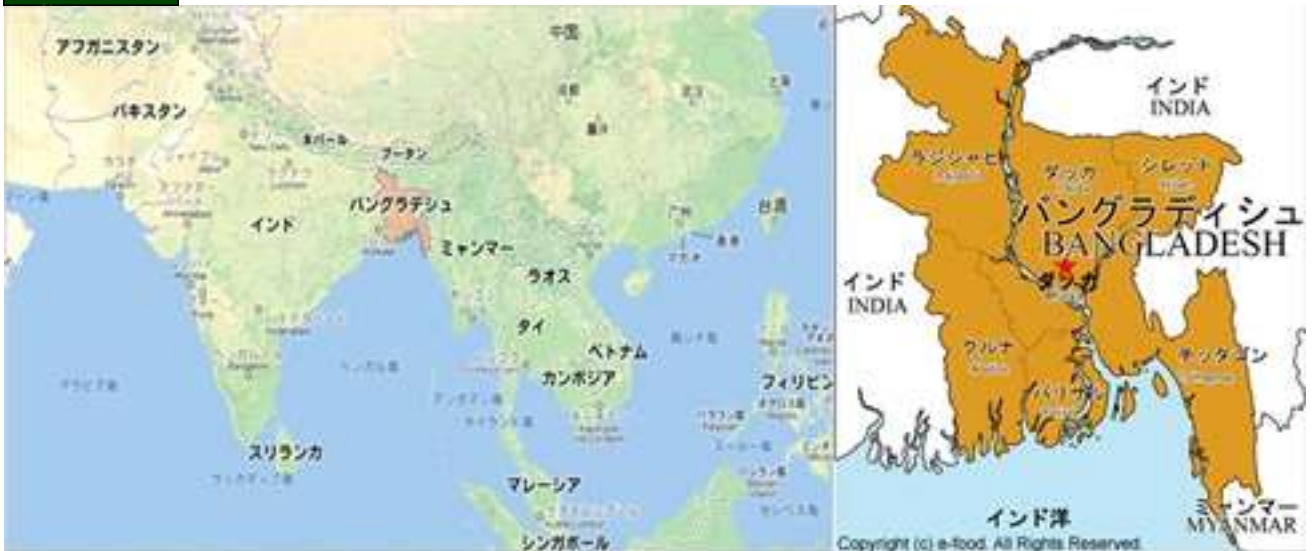


バングラデシュ南部避難民支援

VOL.2 大森赤十字病院 看護師 木村仁美



バングラデシュってどんな国？



バングラデシュは、南アジアにある日本の約4割の大きさの国です。北と東西の三方はインド、南東部はミャンマーと国境を接する所に位置します。二度の独立（1947年のインド・パキスタン分離脱独立及び1971年の西パキスタンからの独立）を経て誕生した国です。

首都はダッカ、公用語はベンガル語です。人口は1億6365万人程で、都市国家を除くと世界で最も人口密度が高い国です。人口の約88%がイスラム教です。アジアの最貧国と言われ、世界各国から多額の救済援助を受けとっていますが、国内外のNGOの活動が盛んなことで国際的に注目されており、世界最大のNGO組織であるBRACを擁しています。

派遣要員の生活

日本赤十字社からの派遣要員は、コックスバザールという町で、国際赤十字・赤新月社からセキュリティー面で許可された宿舎に住んでいます。要員は皆同じ宿舎に住んでいるため、いつでも気軽に連絡がとれる環境です。部屋の間取りは1DKで、トイレとシャワーが部屋についています。



宿舎の部屋の内部



PMO 前に並ぶランドクルーザー

私たちの宿舎から車で5分程の距離に、バングラデシュ赤新月社を中心とした国際赤十字運動による難民支援の拠点となるPMO (Population Movement Operation) のオフィスがあります。日本赤十字社もPMOにオフィスがあるため、事務作業や会議への出席のためにオフィスへ出勤することもあります。



海岸線の風景

休日の過ごし方

コックスバザールは、全長 125km にわたる世界最長の天然の砂浜を持つ海岸線で知られており、バングラデシュ内では観光地としても人気です。海沿いを散歩したり、夕日を見に行ったりと、のんびりと過ごすことができます。



バングラデシュ料理

食材は、採れたての野菜や果物等を売るマーケットへ買い物に行っています。ここでは鮮魚や鶏も売っています。また、宿舎周辺にはローカルフードだけでなく、アジア料理や洋食を提供しているレストランもあり、色々な食べ物に挑戦してみるのも一つの楽しみです。



寺院に鎮座する寢釈迦像

宿舎では自炊ができるため、日本のような何でも揃っているショッピングセンターやスーパーマーケットはないですが、限られた食材でも工夫して調理しており、最近はバングラデシュ風の料理にも挑戦しています。

郊外には幾つか観光地があり、セキュリティの範囲内であれば車移動が可能であるため、先日はラムーにあるバルア系寺院へ観光に行ってきました。

一日の流れ

勤務は週 5 日。イスラム教の休日である金曜日以外は難民キャンプにある診療所を開院しているため、フィールドへ行く日やオフィスへ行く日など、自分でシフトを組んでいます。

時間	フィールド日	時間	オフィス日
6:30 頃	起床、朝食		
7:40	宿舎を出発 車両 3~4 台に分かれて現地スタッフとともに難民キャンプへ	7:40	フィールドや向かうスタッフを確認し、必要事項を申し送り
9:40 頃	難民キャンプにある診療所へ到着	9:00	宿舎を出発
10:00	診療開始 スタッフ、ボランティアとともに診療所を運営しているため、診療所内外の管理業務や各関係機関との連携、訪問者対応等を行う	9:00~ 13:00 頃	オフィスへ到着 資料の制作、会議への参加、診療所に必要な薬剤や物品の調達、関係部署との連携等を行う
14:30	一日の出来事を共有するため終礼をし、診療終了 PMO オフィスへ	13:00 頃	昼食
16:00 頃	PMO オフィスへ到着 診療所で入力したデータの確認、他要員と情報共有や報告書の作成、PMO にいるスタッフや他部門との業務の進捗状況の確認および調整等を行う	14:00~ 18:00 頃	オフィス業務継続 フィールドから帰ってきたスタッフからの申し送りを聞き、データの確認を行う
18:00 頃	オフィス業務終了し宿舎へ 以降プライベートタイム		

皆様のご支援ありがとうございます！
引き続き難民支援活動へのご理解・ご協力をお願いします！



バングラデシュ南部避難民救援金受付中！

http://jrc-tsudukeru.jp/donation6_banglade_sh1/